

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

福祉課（内線222）

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

市民活動課（内線357）

Vol.32 立ち直りを支える地域の力

7月は「社会を明るくする運動」強調月間です。この運動は、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した人の立ち直しへの理解を深め、安全で安心して暮らせる地域社会を築くための全国的な運動です。今年で76回目を迎えます。

今年のテーマは、「保護司をはじめとする更生保護ボランティアを広く知ってもらおう」です。更生保護の活動は、一番近くで立ち直しを見守る「保護司」や、仕事を通じて立ち直しを見守る「協力雇用主」など、多くのボランティアに支えられています。

運動期間中、街頭広報や新聞、テレビなどを通じて、全国でさまざまな広報活動が行われます。土岐保護区保護司会では、岐阜県立東濃フロンティア高校に啓発ポスターのデザイン作成を依頼し、そのポスターを連合自治会の協力で、市内の全244町内に掲示しています。

この機会に、更生保護を支える人たちへの理解を深め、地域の一員として自分に何ができるか一緒に考えてみませんか。

「知らない・わからない」に 向き合ってみませんか？

突然ですがクイズです。次の症状が同時に起きる現象は何でしょうか。

- ①下腹部をギュッと絞られるような痛み
- ②出血が数日間止まらない
- ③理屈抜きのイライラや気分の落ち込み
- ④体の重だるさや頭痛が続く

正解は「月経（生理）」です。多くの女性が毎月1週間ほど、この症状と付き合っています。症状の重さには個人差があり、周囲に負担が伝わりにくい面があります。

この伝わりにくさが、災害時などに問題を生むことがあります。過去には、月経中に1日6枚ほど必要な生理用品が1人2枚ずつしか配布されなかったり、「被災地で生理用品はぜいたく品だ」と誤解されたりする事例もありました。

知識の不足による摩擦や我慢を減らすには、相手の立場を想像することが大切です。日常生活の中で、「もし自分だったら」と少しだけ考えてみませんか。

土岐商写真部×広報とき

土岐の写真を撮り隊 Vol.38 「静寂」

暑さがだんだんと増してくる季節になりました。そんな暑さの中、土岐商業高校の生徒は、部活動に熱中して取り組んでいます。

みなさんも物事に熱中して取り組んでも、熱中症には気を付けてお過ごしくださいね。

撮影班：三年生 小栗心音・安田優里奈

